

南アフリカ共和国

The Republic of South Africa

	2014年	2015年	2016年
①人口:5,591万人(2016年央)			
②面積:121万9,090km ²			
③1人当たりGDP:5,261米ドル (2016年推計)			
④実質GDP成長率(%)	1.7	1.3	0.3
⑤消費者物価上昇率(%)	6.1	4.6	6.4
⑥失業率(%)	24.3	24.5	26.5
⑦貿易収支(100万ランド)	△64,158	△37,960	14,536
⑧経常収支(100万ランド)	△202,253	△177,897	△141,596
⑨外貨準備高(グロス) (100万米ドル)	44,267	41,620	42,566
⑩対外債務残高(グロス) (100万米ドル)	145,082	124,132	143,044
⑪為替レート(1米ドルにつき、 ランド、期中平均)	10.85	12.76	14.71

[注] ⑥:第4四半期、⑦:国際収支ベース(財・サービス)、⑩:2016年は9月末時点

[出所] ①④~⑥:南アフリカ共和国統計局、②:南アフリカ共和国政府、③⑨⑩:IMF、⑦⑧⑪:南アフリカ共和国準備銀行

2016年の南アフリカ共和国(以下、南ア)の実質GDP成長率は、干ばつによる農業被害と鉱業の不振により0.3%と低調で、前年の1.3%を下回った。貿易は、通貨ランド安による価格競争力強化で自動車輸出が伸び、5年ぶりに貿易黒字に転じた結果、経常収支の赤字幅も縮小した。対日貿易は、輸出の約半分を占めるプラチナが前年に続き増加したものの、輸出入共に減少した。

■ 農業、鉱業が不振で成長率は0.3%と低調

2016年の実質GDP成長率は0.3%で、前年の1.3%を下回り、リーマン・ショック直後の2009年(マイナス1.5%)以来最低となった。産業別では、長引く干ばつ被害の拡大により農業が前年比7.8%減となった。鉱業も国際的な需要低迷による生産量の減少により4.7%減となった。一方、金融・保険等サービスなどの第三次産業は1.1%増となり、全体では辛うじてプラス成長を維持した。

需要項目別では、民間最終消費支出が前年比0.8%増、政府最終消費支出が2.0%増と成長を底支えした。しかしながら、為替安や次回大統領選(2019年上半期)前の与党総裁選(2017年12月)に伴う内政の混乱により企業が設備投資を控え、国内総固定資本形成は3.9%減とマイナスに転じた。

2016年の為替レートは、中国をはじめとする世界経済減速に加えて、内政問題に起因する国際社会の信用低下によりランド売り圧力が高まり、期中平均比15.3%安となった。為替安の進行に伴い、輸入価格が上昇し、消費者物価指数上昇率(CPI)は2016年通年で6.4%と、準備

銀行の目標圏内(3~6%)を上回った。

■ 2017年も低成長が続く見込み

2017年の経済見通しも明るくない。同年3月の内閣改造で財務相が財政再建の道半ばにして解任されたことを受け、大手国際格付け機関2社が南アの長期国債を17年ぶりに投資不適格級に格下げし、経済に大きな混乱をもたらした。南ア準備銀行の6月の発表によると、2017年第1四半期のGDP成長率はマイナス0.7%と2期連続のマイナス成長となった。農業は天候の回復を受け22.2%の大幅増となり、鉱業も資源価格の上昇による生産増で12.8%増となった一方、製造業が内需の縮小による石油化学や電気機械部門の不振を受け3.7%減となったほか、GDPの約7割を占める第三次産業も小売り・サービス・金融業の不振で2.0%減と落ち込んだ。南ア統計局は2017年第1四半期の失業率は27.7%と2003年以来の高水準に悪化したと発表した。国際通貨基金(IMF)は2017年4月の発表で、南アの2017年のGDP成長率は2016年からやや回復するも、0.8%にとどまると予測している。

表1 南アフリカ共和国の需要項目別実質GDP成長率

	2015年	2016年				2017年	
		Q1	Q2	Q3	Q4		
実質GDP成長率	1.3	0.3	△1.5	3.1	0.4	△0.3	△0.7
民間最終消費支出	1.7	0.8	△1.5	1.2	2.2	2.2	△2.3
政府最終消費支出	0.5	2.0	1.5	2.8	1.9	0.3	△1.0
国内総固定資本形成	2.3	△3.9	△10.4	△2.8	△3.5	1.7	1.0
財貨・サービスの輸出	3.9	△0.1	△4.5	17.2	△21.2	12.5	△3.2
財貨・サービスの輸入	5.4	△3.7	△11.0	△8.3	△1.0	6.1	3.2

[注] 四半期の伸び率は前期比。

[出所] 南ア準備銀行

■ 為替安を受け自動車輸出は好調

南ア歳入庁によると、2016年の貿易(通関ベース、暫定値)は、輸出が前年比8.0%増の1兆1,217億ランド、輸入は同1.1%増の1兆995億ランドとなり、共にランド建てでは過去4年間で最高を記録した。貿易収支は127億ランドで5年ぶりに黒字

表2 南アフリカ共和国の主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ランド、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (FOB)			
	2015年		2016年(暫定値)		2015年		2016年(暫定値)	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
動植物生産品・食料品類	112,341	129,151	11.5	15.0	78,495	94,532	8.6	20.4
鉱物性生産品	218,081	225,520	20.1	3.4	174,834	153,029	13.9	△12.5
化学品	67,115	67,018	6.0	△0.1	137,743	146,570	13.3	6.4
貴石・貴金属など	185,550	206,480	18.4	11.3	7,821	11,725	1.1	49.9
卑金属および同製品	125,538	133,798	11.9	6.6	60,201	59,205	5.4	△1.7
一般機械・電気機械	100,662	102,899	9.2	2.2	272,489	269,454	24.5	△1.1
輸送機器	131,798	148,695	13.3	12.8	114,094	109,510	10.0	△4.0
合計(その他含む)	1,038,787	1,121,677	100.0	8.0	1,087,924	1,099,470	100.0	1.1

[出所] 南ア歳入庁

表3 南アフリカ共和国の主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ランド、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (FOB)			
	2015年		2016年(暫定値)			2015年		2016年(暫定値)	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
中国	94,243	99,233	8.8	5.3	中国	199,358	199,052	18.1	△0.2
ドイツ	68,221	82,977	7.4	21.6	ドイツ	122,965	130,453	11.9	6.1
米国	78,792	80,823	7.2	2.6	米国	76,483	73,064	6.6	△4.5
ボツワナ	52,686	54,821	4.9	4.1	インド	53,756	46,525	4.2	△13.5
ナミビア	52,893	51,934	4.6	△1.8	サウジアラビア	33,693	41,450	3.8	23.0
日本	51,164	50,974	4.5	△0.4	日本	40,137	37,539	3.5	△6.5
インド	41,921	47,649	4.2	13.7	フランス	24,491	33,057	3.0	35.0
英国	42,891	47,149	4.2	9.9	英国	35,009	31,774	2.9	△9.2
ベルギー	29,536	34,161	3.0	15.7	タイ	26,291	31,683	2.9	20.5
モザンビーク	29,966	33,370	3.0	11.4	ナイジェリア	37,848	30,179	2.7	△20.3
ザンビア	29,538	30,684	2.7	3.9	イタリア	28,301	27,068	2.5	2.5
合計(その他含む)	1,038,787	1,121,677	100.0	8.0	合計(その他含む)	1,087,924	1,099,470	100.0	1.1

[出所] 南ア歳入庁

に転じた。

輸出を品目別にみると、鉄鉱石や石炭などの鉱物性生産品(構成比 20.1%)のほか、貴石・貴金属(同 18.4%)が国際市況の回復を受け、それぞれ金額ベースで 3.4%、11.3%増加した。なかでも、自動車の排ガス触媒として用いられるプラチナは金額ベースで 2.0%、数量ベースで 0.5%増となった。金は金額ベースでは 16.4%増となったが、数量ベースでは 5.3%減だった。自動車をはじめとする輸送機器(構成比 13.3%)の輸出は、ランド安により価格競争力が強化されたことにより 12.8%増となった。前年に続き欧州向けが増加し、乗用車の輸出ではドイツ向けが前年比 46.6%増、スペイン向けが 78.3%増と大きな伸びを示した。南ア自動車製造者協会(NAAMSA)によると、2016年の国内の自動車生産台数は国内販売の不振から前年比 2.8%減の 59万 9,000台となった。うち、輸出台数は全体の 62.7%を占める 34万 2,700台で前年比 3.5%増となった。

国・地域別輸出では、首位の中国が輸出額 992億 3,300万ランドとなり、前年比 5.3%増となった。ドイツをはじめとする欧州向け輸出が大幅に増加したため、構成比は前年の 9.1%から 8.8%に低下した。品目別では輸出の 3割近くを占める鉄鉱石が金額ベースで 9.4%減となったものの、マンガン(55.2%増)、クロム(15.9%増)、チタン

(72.4%増)などは大幅に増加した。

前年 3位のドイツは輸送機器が前年比 47.9%増と大幅に増加したため、米国を抜いて 2位となった。3位の米国は前年比 2.6%増にとどまった。これはフェロアロイが増加(31.7%増)したものの、プラチナ(9.8%減)やダイヤモンド(10.3%減)などが減少したためである。

サブサハラ・アフリカ(以下、サブサハラ、構成比 27.6%)向けは 4.7%増となった。前年 5位の隣国ボツワナは、研磨用のダイヤモンドの増加(25.7%増)を背景に 4位に浮上した。一方、前年 4位のナミビアは同国向け最大輸出品目の自動車が 10.0%減少し、順位を一つ落とした。域内 3位の輸出相手国のモザンビークは南ア国内港の代替港として利用され、クロムの輸出額が前年比約 4倍となり、全体で 11.4%増となった。域内 4位のザンビアは石油・同調整品が増加(38.7%)し、全体で 3.9%増だった。

EU28向け(構成比 23.8%)は 12.8%増となった。自動車輸出が 33.7%増と大幅に増加したほか、貴石・貴金属(9.1%増)や、グレープフルーツをはじめとする果物(18.2%増)が増加した。

■石炭火力発電所新設でディーゼル燃料の輸入が減少

輸入を品目別にみると、鉱物性生産品(構成比 13.9%)

のうち、原油は原油価格低下の影響により金額ベースで前年比 12.9%減となった。2015 年 8 月に三菱日立パワーシステムズ (MHPS) がボイラーを納入したメデュピ石炭火力発電所の一号機 (800 メガワット) が稼働を開始して以降は、電力公社エスコムが発電用に購入していた原油・ディーゼル燃料の輸入が減少しているほか、経済減速により需要が低迷していることが影響している。2016 年 12 月には同じく MHPS がボイラーを納入したクシレ石炭火力発電所の一号機 (800 メガワット) が稼働した。今後、メデュピとクシレを合わせて残り 10 機 (合計 8,000 メガワット) が 2019 年秋までに新設される計画で、国内の電力事情は改善していくとみられる。動植物生産品・食料品類 (構成比 8.6%) は前年比 20.4%増と大幅に増加した。主要穀物であるメイズの国内生産が干ばつの影響で減少したことから、輸入が前年比約 5 倍と大幅に増加した。うち、約半分はアルゼンチンからの輸入だった。メイズ輸入には同じく干ばつ被害を受けた周辺国への再輸出分も含まれており、南アからジンバブエ向けの輸出は前年比 30 倍に上った。

国・地域別輸入では、10 年連続で中国が首位となったが、総額の約 25%を占める電化製品が減少に転じ、全体では 0.2%減となった。2 位のドイツは自動車部品 (11.8%増) や一般機械・電気機器の輸入が増加し、全体で 6.1%増となった。3 位の米国は一般機械 (12.4%減) の輸入が減少し、前年比 4.5%減となった。4 位のインドは石油・同調製品 (32.8%減) が大幅に減少し、13.5%減となった。サブサハラからの輸入 (構成比 10.0%) は 1.6%減少した。域内輸入の約 3 割を占めるナイジェリアの原油減産により輸入額が大幅に減少 (20.3%減) したことが最大の要因とみられる。

■ 対内直接投資では非資源分野への投資が増加

南ア準備銀行によると、2016 年の対内直接投資 (国際収支ベース、ネット、フロー) は前年比 51.4%増の 333 億

表 4 南アフリカ共和国の対内・対外直接投資額
〈国際収支ベース、ネット、フロー・残高〉

(単位:100 万ランド)				
	2014 年	2015 年	2016 年	2015 年末残高
対内直接投資額	62,627	22,065	33,397	1,970,412
対外直接投資額	83,234	73,282	49,749	2,404,554

〔出所〕南ア準備銀行「Quarterly Bulletin (四季報)」2017 年 3 月号

9,700 万ランドだった。資源価格低迷や政情不安を受けて資源分野での大型投資は見られなかったが、製造業を中心に非資源分野の投資が増加した。一方、南アからの対外直接投資は、32.1%減の 497 億 4,900 万ランドだった。

2016 年の外国企業による南ア向けの大型投資案件では、中国の自動車メーカー北京汽車 (BAIC) のクーハ経済特区 (SEZ) 内での自動車組立工場建設の発表 (110 億ランド、2016 年 8 月) があった。これは 2015 年 12 月にヨハネスブルクで開催された「中国・アフリカ協力フォーラム (FOCAC)」において両国首脳が交わした覚書に基づいて実行された。自動車分野での新規投資としては過去 40 年で最大となった。ほかにも、味の素による大手加工食品メーカー・プロマシドールの株式 33.33%取得発表 (約 558 億円、2016 年 11 月) のほか、英アソシエイテッド・ブリティッシュ・フーズによる食品加工大手イロボ・シュガーの全株式取得 (2016 年 5 月、56 億ランド)、スウェーデン大手家電メーカーのエレクトロラックスによる温水器メーカー大手クウイコットの買収 (約 32 億ランド、2016 年 10 月) などがあった。

南ア企業の対外直接投資案件では、家具販売大手シュタインホフ・インターナショナルによる米マットレス販売最大手マットレス・ファームの買収発表 (24 億ドル、2016 年 8 月) や、金生産事業者シバニエ・ゴールドによる米スティルウォーター・マイニングの 23%株式取得発表 (23 億ドル、2016 年 12 月)、大手私立総合病院ライフ・ヘルスケアによる英国医用画像サービス大手アライアンス・メディカルの株式 95%取得の発表 (97 億ランド、2016 年 11 月)、同じく大手私立総合病院メディクリニックによるアラブ首長

表 5 南アフリカ共和国の主な対内直接投資事例 (2016 年)

業種	企業名	国籍	時期	投資額	概要
自動車	住友ゴム工業	日本	2016 年 3 月	66 億円	トラック・バス用タイヤの生産設備新設
自動車	トヨタ自動車	日本	2016 年 5 月	約 519 億円	ピックアップトラックおよび SUV 車生産設備新設
食品	アソシエイテッド・ブリティッシュ・フーズ	英国	2016 年 5 月	56 億ランド	食品大手イロボ・シュガーの株式 49%追加取得による全株式取得
製薬	ロート製薬	日本	2016 年 7 月	買収額非公表	大手健康・美容メーカー AJ ノースの子会社化
自動車	北京汽車 (BAIC)	中国	2016 年 8 月	110 億ランド	クーハ経済特区 (SEZ) 内での自動車組立工場建設
金融	カーライル・グループ	米国	2016 年 9 月	株式取得額非公表	販促用製品販売大手アムロッドの株式過半数取得
IT・通信	アイレス	豪州	2016 年 9 月	約 150 億ランド	市場データ販売大手アイネット・ビーエフエーの買収
家電	エレクトロラックス	スウェーデン	2016 年 10 月	約 32 億ランド	温水器メーカー大手クウイコットの買収
食品	味の素	日本	2016 年 11 月	約 558 億円	大手加工食品メーカー・プロマシドールの株式 33.33%取得

〔出所〕各社発表および報道などから作成

表 6 南アフリカ共和国の主な対外直接投資事例(2016年)

業種	企業名	投資国・地域	時期	投資額	概要
医療	メディクリニック	アラブ首長国連邦	2016年2月	14億ポンド	アラブ首長国連邦の総合病院アル・ノアの買収合併
家具	シュタインホフ・インターナショナル	米国	2016年8月	24億ドル	米マットレス販売最大手マットレス・ファームの買収
医療	ライフ・ヘルスケア	英国	2016年11月	97億ランド	英国医用画像サービス大手アライアンス・メディカルの株式95%取得
保険	サンラム	モロッコ	2016年12月	3億ドル	モロッコ保険大手サハムの株式30%追加取得
鉱業	シバニエ・ゴールド	米国	2016年12月	23億ドル	米スティルウォーター・マイニングの23%株式取得

〔出所〕 各社発表および報道などから作成

表 7 南アフリカ共和国の対日主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ランド、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (FOB)			
	2015年	2016年(暫定値)				2015年	2016年(暫定値)		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
動植物生産品・食料品類	1,740	1,897	3.7	9.0	化学品	1,533	2,135	5.7	39.3
鉄鋼・スラグおよび灰	7,429	6,209	12.2	△16.4	鉄鋼・同製品	1,373	1,362	3.6	△0.8
鉄鉱	5,413	4,219	8.3	△22.1	一般機械	9,540	7,287	19.4	△23.6
マンガン鉱	1,250	1,189	2.3	△4.9	印刷機	2,239	1,896	5.1	△15.3
木材、チップ	2,020	2,294	4.5	13.6	ブルドーザー、地ならし機など	1,612	1,127	3.0	△30.1
貴石・貴金属など	22,589	24,530	48.1	8.6	電気機器	1,979	2,134	5.7	7.8
鉄鋼および同製品	4,455	5,152	10.1	15.6	輸送機器	9,229	9,648	25.7	4.5
フェロクロム(炭素含有量4%超)	3,650	3,679	7.2	0.8	乗用車	5,183	5,857	15.6	13.0
アルミニウムおよび同製品	2,988	2,118	4.2	△29.1	貨物自動車	1,537	1,040	2.8	△32.3
輸送機器	7,039	5,816	11.4	△17.4					
合計(その他含む)	51,164	50,974	100.0	△0.4	合計(その他含む)	40,137	37,539	100.0	△6.5

〔出所〕 南ア歳入庁

国連邦の総合病院アル・ノアの買収合併(14億ポンド、2016年2月)、保険大手サンラムによるモロッコ保険大手サハムの株式30%追加取得(3億ドル、2016年12月)などがあった。

■対日貿易額は輸出入ともに減少、対南ア投資は増加

南ア歳入庁によると、2016年の対日輸出は前年比0.4%減の510億ランド、対日輸入額は同6.5%減の375億ランドだった。

南アの日本への輸出を品目別で見ると、自動車製造に用いられる排ガス触媒のプラチナをはじめとする貴石・貴金属など(構成比48.1%)が前年比8.6%増となったほか、鉄鋼・同製品が15.6%増となった。鉄鉱(22.1%減)、アルミニウムおよび同製品(29.1%減)、輸送機器(17.4%減)は大幅に減少した。

南アの日本からの輸入を品目別にみると、化学品(39.3%増)の中でも、医薬品(81.6%増)の輸入が拡大した。輸入の約2割を占める一般機械が前年比23.6%減となり、全体では6.5%減となった。

日本の財務省統計によると、2016年の南アへの対外直接投資額(国際収支ベース、ネット、フロー)は1,155億円、2015年の1,306億円を下回った。近年の主な動きでは、前述の味の素によるプロマシドールの株式取得のほか、トヨタのピックアップトラックおよびSUV車生産設備新設(約519億円、2016年5月発表)、ロート製薬による南

ア健康・美容メーカー大手AJノースの子会社化(買収額非公表、2016年7月発表)、阪和興業と石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)が共同出資する日本南ア・クロムによる大手クロム生産者サマンコールの株式20%取得(約270億円、2017年4月発表)、いすゞによる米ゼネラルモーターズ(GM)との合弁の南ア商用車生産部門の完全子会社化(買収額非公表、2017年5月発表)などがみられた。住友生命は南ア保険最大手ディスカバリーと健康増進型保険商品の日本展開に向けた業務提携を締結した(2017年6月)。